

とめて印刷された町史の著述はなかったのであります。

そのため、一日も早く町史発刊の運びを……と考えたのであります。

昭和五〇年三月一〇日、町史編集について相計り、ようやく機が熟しました。その後、加洲幸吉先生を中心とし、編集にたずさわる諸氏によつて稿がまとまり、発刊の運びとなりましたことはまことに喜びにたえません。

執筆委員の諸先生方は御多端な立場にありながら資料収集に、調査に、執筆に、あらゆる困難と犠牲と、努力によつて成し遂げていただきました。内容にはまだ不備の点もありましょうが、本町にとつては不滅の快挙であると確信しています。

そのほか、本史刊行にご協力くださった各位に対し、深甚の謝意を捧げる次第であります。

さまざまな曲折を経て移り変つてきたありのままの町の姿をこの町史によつて将来へ伝承し、先人の業績をしのび、過去を反省し、将来の充実発展のために活用していただきたい。さらに子孫のために正しい光明と道しるべのために、そして幸せな町づくりのために資していただきたいと念願し、発刊のことばといたします。

昭和五四年一月一日

目次

地理と自然編

第一章 町の形態……………	三
第一節 位置・境界……………	三
一、位置……………	三
二、境界……………	三
第二節 面積……………	七
一、総面積……………	七
二、地目別面積……………	七
第三節 住民……………	一〇
一、人口の変遷……………	一〇
二、年令及び性別人口……………	一二
三、産業別人口……………	一七

第四節 行政区画	二一
一、藩政時代	二一
二、明治時代	二一
三、昭和時代	二二
第二章 町の風土	二四
第一節 地 勢	二四
一、地形の概説	二四
二、山 地	二七
三、平 地	三二
四、水 系	三四
五、ため池	四五
第二節 地 質	四九
一、土地のなりたち	四九
二、地 質	五〇
三、採石と鉱泉	五三
第三節 気候と災害	五五
一、気 候	五五

二、災 害	六〇
第四節 生 物	六六
一、植 物	六六
二、動 物	七七
第五節 資 源	八五
一、農業資源	八六
二、林業資源	九四
三、観 光	九八

歴 史 編

第一章 先史時代	一〇九
第一節 先史時代本町周辺の概観	一〇九
一、無土器時代	一〇九
二、縄文時代	一一〇
三、弥生時代	一一五
第二節 本町の遺跡	一一六

一、中川茶堂、踊り駄場遺跡……………	一一六
二、広見岡駄場遺跡……………	一二一
第三節 先史時代と一本松町……………	一三〇
一、南予のあけぼのと一本松……………	一三〇
二、稲作の発展と村づくり……………	一三一
第二章 古代・中世……………	一三八
第一節 大和朝時代……………	一三八
一、宇和と宇和津彦……………	一三八
二、国造 くにぞう の時代……………	一三九
三、古墳文化と人々の生活……………	一四一
第二節 飛鳥時代……………	一四三
一、大化の改新、大宝律令と南予……………	一四三
二、郷と里……………	一四四
第三節 奈良・平安時代……………	一四七
一、奈良朝のころ……………	一四七
二、平安朝のころ……………	一五一
藤原純友の乱と郷土……………	一五二
荘園の発達と御荘……………	一五七

源平争奪のころ 一六一

第四節 鎌倉時代……………	一六二
一、伊予の国の情勢……………	一六二
二、宇和郡と西園寺家……………	一六四
第五節 南北朝時代……………	一六八
一、足利尊氏の叛と南予……………	一六八
二、懷良親王と本町：御在所滞在説……………	一七〇
第六節 室町時代……………	一七五
一、西園寺家の動きと南予の形勢……………	一七五
二、御荘の庄官……………	一七八
三、御荘の領主勸修寺家……………	一八一
四、九州大友、土佐長宗我部の攻勢……………	一八五
五、土佐一条家の末路と御荘……………	一八七
六、篠山権現の起源と藤岡家……………	一九三
七、天災と飢きん……………	二〇四
第三章 近世（安土桃山時代・江戸時代）……………	二〇七
第一節 安土桃山時代……………	二〇七

一、猿越城の戦い……………	二〇七
二、勤修寺の末路とゆかりの人たち……………	二一七
三、郷土の武将たち……………	二二三
四、その後の郷土の支配者……………	二三一
小早川隆景の時代 二三二	戸田勝隆の時代 二三三
五、太閤検地と本町の村高……………	二四〇
六、清良記―親民鑑月集……………	二四三
第二節 江戸時代 宇和島藩政の変遷と郷土……………	二四五
一、江戸幕府創立のころ……………	二四五
藤堂高虎の時代 二四六	富田信高の時代 二四七
二、幕藩体制と宇和島藩……………	二五〇
三、藩政の初期 草創期……………	二五四
初代 秀宗の時代 二五四	二代 宗利の時代 二五九
四、藩政の中期（財政の苦難期）……………	二六六
三代 宗賢の時代 二六六	四代 村年の時代 二六七
五代 村候の時代 二七一	六代 村寿の時代 二七七
七代 宗紀の時代 二八一	
五、藩政の末期（幕藩制の崩壊期）……………	二八五
八代 宗城の時代 二八五	九代 宗徳の時代 二九一
第三節 庄屋と村人……………	二九五
一、庄屋の職務と特権……………	二九五
二、庄屋の補佐役……………	二九九
三、本町各旧村の庄屋……………	三〇一
正木村の庄屋 三〇一	板尾村の庄屋 三〇三
中之川村の庄屋 三〇五	広見村の庄屋 三〇七
満倉村の庄屋 三〇八	上大道村の庄屋 三〇八
四、農民の階層……………	三一〇
第四節 年貢の上納……………	三一四
一、宇和島藩の税制……………	三一四
二、本町の田畑、元高、諸税……………	三一六
三、年貢上納の手続き……………	三二四
第五節 農民経済と諸産業……………	三二七
一、農村経済疲弊の原因……………	三二七
二、開墾、隠し田……………	三二九

三、藩政下の諸産業……………	三三一
第六節 天災悪疫と農民騒動……………	三四〇
一、災害の記録……………	三四〇
二、悪疫……………	三四五
三、農民騒動……………	三四八
第七節 庶民生活の規制と教育文化……………	三五一
一、衣食住の規制……………	三五一
二、信仰の規制…キリシタン弾圧……………	三五七
三、おくれた教育文化……………	三六〇
第八節 篠山の境界争い……………	三六四
一、宿命の対決(事件の発端)……………	三六四
二、事件の概要……………	三六六
三、公儀に上訴……………	三七三
四、幕府の裁定……………	三七六
五、その後の篠山……………	三七八
第九節 小山の御番所と松尾峠……………	三八二
一、小山の関……………	三八二

二、松尾峠と境界標……………	三八四
三、御番所掟……………	三八八
四、御番所の役人……………	三九一
第二〇節 藩政時代の道……………	三九五
一、文献に推定される道……………	三九五
二、城下へ通ずる道……………	三九八
三、篠往還……………	四〇〇
四、その他の道……………	四〇一
第二一節 本町の氏神と寺院……………	四〇五
一、氏神……………	四〇五
2、本町各氏神様の由緒沿革……………	四〇七
若宮神社(増田)四〇七 黄幡神社(正木)四〇八	
春日神社(小山)四〇八 熊野神社(中川)四〇八	
日枝神社(広見)四一一 天神社(満倉)四一一	
大宮神社(上大道)四一一	
二、寺院……………	四一五
2、本町各寺院の由緒沿革と探訪……………	四一七

歎喜光寺（正木）	四一八	安養寺（増田）	四一九	常宝寺（中川）	四二二
法眼寺（広見）	四二六	善林寺（満倉）	四二八		
観世音寺	四三〇				

第四章 近代一（明治時代）……………四三一

第一節 明治維新後の篠山……………四三一

- 一、篠山観世音寺の終焉……………四三一
- 二、なお尾を引いた境界問題と決着……………四三二
- 三、その後の篠山神社……………四三五

第二節 明治初年の地方自治と諸問題……………四三七

- 一、地方区画の改革と本町……………四三七
- 二、明治の新姓と戸籍の混乱……………四四六
- 三、地租の改正と入会山問題……………四五一
- 四、維新前後土佐宿毛人の活躍と本町……………四五九

第三節 一本松村の発足と村議会……………四六三

- 一、一本松村の誕生……………四六三
- 二、初期の村議会風景……………四七七
- 三、激動の政界と選挙騒動（近隣関係）……………四八七

第四節 明治歴代村長の施政……………四八九

初代 田中長太郎時代	四八九	二代 巖岡峰太郎時代	四九一
三代 岩村善太郎時代	四九二	四代 峯岩太郎時代	四九五
五代 中尾政忠時代	四九九	六代 山口源吾時代	五〇一

第五節 明治の農家経済……………五〇三

- 一、おもな農業収入……………五〇三
- 二、明治前期の小作慣行……………五〇九
- 三、産業革命と本町の産業……………五一二

第六節 交通・通信……………五二〇

- 一、陸上の交通……………五二〇
- 二、海上の交通……………五二三
- 三、通 信……………五二四

第七節 明治の教育……………五二六

- 一、学制頒布のころ……………五二六
- 二、各小学校の記録……………五三六
- 広見学校 五三六
- 増田学校 五三八
- 小中学校 五三九
- 中川学校 五四一
- 正木学校 五四二
- 満倉学校 五四三

三、小学校の統合（一本松小学校の発足）	五四五
四、明治の社会教育	五五一
第八節 庶民の生活文化	五五二
一、文明開化と郷土	五五二
二、治安、医療	五六〇
第九節 徴兵令と戦没者	五六七
一、徴兵令の施行と郷土	五六七
二、明治時代の戦没者	五七一
三、戦後の活動	五八〇
第五章 近代二（大正時代）	五八三
第一節 広見の耕地整理	五八三
一、耕地整理前の状況	五八三
二、工事の着工	五八四
三、工事の終了	五八六
第二節 大正景気と庶民経済	五八八
一、第一次世界大戦と景気の変動	五八八
二、庶民の経済生活	五八九

第三節 米騒動（県内情勢）	五九二
一、空前の米価騰貴	五九二
二、米騒動の勃発	五九四
第四節 天災と伝染病	五九六
一、大洪水	五九六
二、螟虫 （いもむし） の被害	五九九
三、スペインかぜの流行	六〇一
第五節 苦難の村政	六〇二
一、七代 稲田嘉蔵村長時代	六〇二
二、八代 吉良麟太郎村長時代	六〇七
第六節 大正時代の教育	六〇九
一、大正期教育の概要	六〇九
二、村の教育	六一二
第七節 大正期の文化と娯楽	六一九
一、交通・通信機関	六二〇
二、出版文化の普及と娯楽	六二三
第六章 近代三（昭和時代・第一期）終戦まで	六二八

第一節 農村の疲弊	六二八
一、金融恐慌	六二八
二、農村不況	六二八
三、むしばまれた青春	六三二
四、経済更生に関する国の施策	六三四
五、電話の架設	六三六
六、龍舌蘭 りゅうせつらん の開花	六三七
第二節 正木小学校の建築問題	六三九
一、篠南の提携	六三九
二、村民大会の開催	六四〇
三、事件の落着	六四一
第三節 村の自力更生	六四三
一、七代 山口村長の就任と道路工事	六四三
二、各種団体の決起	六四五
三、篤志家の出現	六四六
四、八代 中平村長の登場と戦時下の村政	六四八
五、正木部落の電燈	六四九

第四節 昭和初年の教育	六五一
一、国の教育施策	六五一
二、昭和初年の学校教育	六五二
三、昭和初年の社会教育	六六一
第五節 戦争の激化と郷土	六六二
一、戦局の拡大	六六二
二、国家統制の強化	六六三
三、太平洋戦争の勃発	六六五
四、統後の村民生活	六六七
五、本土の空襲激化	六七二
六、国民学校の誕生	六七三
七、青年学校と青年団・婦人会	六七五
第六節 ああ、英霊一八六柱	六七八
一、応召と戦没者	六七八
二、忠魂碑・慰霊塔	六八二
三、終 戦	六八三
戦没者一覧表	六八五

第七章 現代（昭和時代・第二期）終戦以降……………七〇〇

第一節 戦後の混乱……………七〇〇

一、旧体制の解体……………七〇〇

二、深刻な食糧不足……………七〇〇

三、生活必需物資の欠乏……………七〇一

四、終戦直後の災害……………七〇四

五、空前のインフレーション……………七〇五

第二節 農地改革と本町……………七〇五

一、占領軍の意図と日本政府の方針……………七〇五

二、一本松村の状況……………七〇七

三、農地改革の結果……………七〇九

四、農地改革のその後……………七一〇

五、農地の交換分合……………七一一

六、上大道の開田事業……………七一一

第三節 流動する時代への対応と町政の推移……………七一二

一、選挙制度改革……………七一二

二、一二代 山口三三村長時代（昭和二三・四―昭和二三・一）……………七二三

三、一二代 田中朔村（町）長時代（昭和二三・二―昭和三八・一二）……………七二五

教育施設の充実 七二六 農村振興五ヶ年計画 七二八

国保一本松病院 七二九 農事有線放送 七三〇 簡易水道 七三一

火葬場 七三二 国土調査 七三三 町制の施行 七三五

四、一三代 稲田卓一町長時代（昭和三九・一―昭和四六・一二）……………七四三

教育施設の充実 七四四 第一次農業構造改善 七四九

第一次林業構造改善 七五五 住民福祉 七六〇

役場庁舎の改築 七六二 道路の整備 七六七

五、一四代 増川岩竹町長就任以降（昭和四七・一―）……………七六九

教育施設の充実 七七〇 第二次林業構造改善 七七二

第二次農業構造改善 七七五 農村総合整備モデル事業 七七七

企業の誘致 七八二 住民福祉 七八五 道路の整備 七九五

米の生産調整（減反）と本町 七九八 農林業の諸団体 八〇二

一本松町商工会 八〇四 消防団の組織 八〇四

町財政の推移 八〇五 一本松町の行政機構 八〇七

第四節 戦後教育の推移……………八〇九

一、終戦直後の教育……………	八〇九
二、教育委員会の発足……………	八二二
三、勤務評定騒動……………	八二三
四、全国いっせい学力調査……………	八二四
五、学校教育の進展……………	八三一
六、社会教育の変遷……………	八四二
七、教育余間……………	八五五
第五節 生活文化と社会保障……………	八五七
一、生活文化の向上……………	八五七
二、町民のレジャー……………	八五九
三、文化活動の進展……………	八六一
四、社会保障……………	八六二
第六節 将来への展望と課題……………	八六九

民 俗 編

○民俗編序説……………	八七九
-------------	-----

第一章 生活・経済などの伝承……………	八八三
第一節 衣食住……………	八八三
一、衣生活……………	八八三
仕事着 八八三 祭り着（よそゆき） 八八六	
二、食生活……………	八九一
日常食（けの食） 八九一 祭り料理（晴れの食） 八九五	
その他の郷土食 八九八	
三、住 居……………	九〇一
屋敷どり 九〇一 建物と間取り 九〇三 燈火 九一〇	
第二節 生産・生業……………	九一五
一、稲作、稲作儀礼……………	九一五
二、その他の農作……………	九二七
三、その他の生産生業……………	九二九
養蚕 九二九 炭焼き、山仕事 九三二 紺屋 九三三	
紙スキ 九三六 畜産 九三六 諸職 九三九 奉公人 九四二	
第三節 交通・交易……………	九四三
一、運輸・通信……………	九四三

二、交 易……………九五一

第四節 社会生活……………九五六

一、地域社会、近隣関係……………九五六

二、家族関係……………九六五

第五節 民俗知識……………九六八

一、しつけ、家訓……………九六八

二、民間医療……………九七八

三、天文・気象……………九八五

四、数理慣行……………九八八

五、動植物の性質利用……………九九一

第二章 精神生活・芸能行事などの伝承……………九九二

第一節 信 仰……………九九二

一、篠山信仰……………九九二

二、お大師信仰、四国遍路……………一〇〇〇

三、氏神様、その他の信仰……………一〇〇八

四、崇り神信仰、憑きもの伝承……………一〇二六

第二節 民俗芸能、娯楽……………一〇三六

一、秋祭りのだしもの(お伊勢踊り、しし舞い、唐しなど)……………一〇三六

二、増田のはなとり踊り……………一〇四三

三、正木のはなとり踊り……………一〇五二

四、盆 踊 り……………一〇五六

五、庶民の娯楽……………一〇六〇

芝居歌謡の類 一〇六一 闘牛(ツキヤイ)の習俗 一〇六七

宮相撲 一〇七一 山や海・川の楽しみ 一〇七三

童戯(子どもの遊び) 一〇七五

第三節 人の一生・人生儀礼(通過儀礼)……………一〇八六

一、出産・育児・厄などの習俗……………一〇八六

二、婚姻習俗……………一〇九五

三、葬送の習俗、死者供養……………一一一〇

第四節 年中行事……………一二二八

一、正月行事……………一二三〇

二、春の行事……………一二三五

三、夏の行事……………一二三九

四、秋の行事……………一二四六

五、冬の行事

一一四七

第三章 口頭伝承

一一五〇

第一節 民話

一一五〇

一、伝説

一一五〇

正木の伝説 一一五一

増田の伝説 一一五四

小山の伝説 一一五六

中川の伝説 一一五八

広見の伝説 一一五九

上大道の伝説 一一六一

満倉の伝説 一一六四

二、昔話

一一六五

動物昔話 一一六六 人情や怪異の昔話 一一七〇 笑い話 一一七二

三、トツポ話

一一七七

第二節 歌謡

一一八二

一、民謡

一一八二

二、童歌

一一八九

第三節 俚諺

一二〇〇

一、民俗の処生訓とユーモア

一二〇〇

二、郷土俚諺集

一二〇一

第四節 謎々

一二〇五

一、二段謎々

一二〇六

二、三段謎々

一二〇六

○庶民の祈りと願い

― 民俗編の結びにかえて ―

一二〇八

付 録

第一章 地名

一二一一

第一節 郷土の地名：歴史は地名に書かれている

一二一一

第二節 一本松町地名地図

一二一二

第三節 地名考

一二三四

第二章 名字と系図・系譜

一二四〇

第一節 名字の起りと明治の新姓

一二四〇

第二節 部落別（地区別）の名字調査

一二四二

第三節 系図と系譜

一二五一

第三章 方言

一二六六

第一節 歴史的遺産としての郷土方言

一二六六

一本松町史正誤表

頁	上下段、行	誤	正
1314	上段10行、下段1行	岡崎恒夫	岡崎恒雄
"	下段11行	谷岡熊夫	谷岡熊雄
"	下段12行	中尾爲一	中尾爲久
1316	上段2行	二五、四四、三	三五、三七、八
"	上段3行	四四、四	三七、九
"	上段12行(退任年月)	四九、五	四六、一〇
"	上段12行の次	人名がもれている	森下保雄 四六、一〇～四九、六
"	上段18行、下段12行	山崎保茂	山崎安茂
"	下段15行、20行	} 大本邦夫	大本邦男
1317	上段9行		
"	上段7行(退任年月)	(空白)	四七、六
1318	上段8行	中平儀三郎	中井儀三郎
1320	上段終行(退任年月)	(空白)	五三、九
1323	上段8行	小西秋太郎	山西秋太郎
1347	年表上段 (連合処女会結成)	一九二一(大正一〇年)	一九二二(大正一一年)
1359	年表下段()内	(空白)	五四、一予定
1364	あとがき 上段9行	今治	明德
372	写真説明	藤	藤
723	" 上段()内	製林	製材
1277	組の名	下一	下二
1278	"	下二	下一

年表

一本松町史年表……………一三三

第二章 一本松町方言単語集……………	二六六
第三章 郷土方言に関する考察……………	二八一
第四章 一本松町方言歌集…祖先との対話……………	二八五
第四章 本町の文化財……………	二九一
第一節 指定文化財……………	二九一
第二節 指定以外の文化財……………	二九三
第五章 碑に見る人物誌……………	二九九
第六章 歴代役職員録……………	一三〇九